令和8年度 3学年 授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　学校番号 306 開進第二中学校

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	○ 表現や情報を正確に読み解き、それを伝えること。 　描かれている数値や情報を変換や省略をして他者に伝えてしまう生徒が多い。文章中では「21%」と書かれているものを「20%」と四捨五入して解答する生徒が多数見受けられた。 ○ 物語に心を動かされ、それを文章で表現し他者に伝えること。 　感動的な表現や繊細な場面での感想を書くときに、自分の考えたことを表現しきれないことがあった。また、感想を他者に伝える際に、自分は何に感動したのかを理由を明確にして伝えることに苦手を感じた。	○ 叙述を正確に読み取らせる。そのために、各単元における第1時では、書かれていることを正確に読み取る指導を必ず行う。読み取れたかどうか、他者と共有したり、簡単なテストを行ったりして確認する。 ○ 適切な副教材を設定し、感動を体験させる。文章だけでは場面の状況を理解することは難しいと考える。そのため、映像資料やデジタル教科書等を使用して、文章に加え視覚的情報からも感動させる指導を行い、何に感動したのか、どう考えたのかを生徒自身にはっきりとイメージできるようにする。 ○生徒同士で作成した文章や記述を読み合い、根拠（本文の記述や理由）を明確にして推敲・アドバイスし合う対話的な学習を充実させる。	
社会	○知識・理解の定着に個人差がある。 ○既習事項や資料・統計データを活用し、根拠を明確にして文章で表現すること（思考力・表現力）に課題がある。	○毎時間、前時の振り返りを、パワーポイントを見てクラス全体で行い、知識の定着を図る。カフート等のクイズ形式や小テストを定期的に行う。 ○タブレット端末を活用して資料・グラフ等の根拠を整理させ、自分の考えを文章でまとめたり、小グループで議論・発表したりする活動を毎時間設定する。	
数学	○基礎的な技能が定着していない生徒がいる。応用力が不足している生徒が多い。 ○図形・証明の分野では高い達成率を上げている。図・式・表・グラフを根拠として説明する力に課題がある。	○習熟度別の基礎コースでは、前授業までに奇襲した基本的な技能が定着しているか、始業時に復習をする。標準コースや発展コースでは様々な形式の問題を経験させ、解ける喜びや楽しさを体験させる。 ○話し合い活動などを通して生徒に説明をさせたり、その説明の根拠や判断が正しいかを考えさせたりすることを大切にして、授業を計画・実施する。	
理科	○理科に興味・関心をもつ生徒は多いが、自然の事象・現象についての基礎的な概念や原理・法則を理解し、それを基に思考・判断を行い、科学的な視点で自然の事象・現象を捉える経験が不足している。 ○科学的な視点で捉え、自らの考えを表現する力が不十分であり、表現力の育成を含めて指導の工夫が必要である。	○観察・実験に日常生活に関する身近な学習材を取り入れ、体験的な学習を中心とした指導を行うと共に、デジタル教材や ICT 機器を積極的に取り入れ、生徒の興味関心を高めさせる。 ○導き出される結果を表やグラフ等を用いてレポートにまとめ、小グループ内で根拠をもって発表・対話する機会を設定し、表現力を育成する。	

音楽	○ほとんどの生徒が前向きに学習に取り組むが、主体的に試行錯誤して取り組む態度に差が見られる。 ○音楽の構造についての知識や音楽の要素を知覚・感受する力に差がみられる。	○表現の工夫による多様な効果を味わわせたり、曲の背景や作曲者の意図を考えさせたりして音楽表現の意欲を高める。 ○楽曲に使用されている楽語や記号の意味を再確認し、「なぜその表現や記号が用いられているのか」の根拠をグループで話し合い、ワークシートに記入し、全体共有する。	
美術	○多くの生徒が基礎的な技能を習得できるが、自分なりの表現を考える意欲や、意図に応じた技法や道具、制作の手順を考えることに課題がある。	○基礎的な技法とともに応用例を提示する。様々な参考作品を提示し制作への意欲を高める。全体への指導を丁寧に行い、個人で考えて試行錯誤できる時間を確保する。 ○互いの作品を鑑賞し合い、どのような意図・技法を用いて表現したのか根拠を伝え合う活動を取り入れ、振り返りを次の工夫につなげる。	
保健体育	○個人技能への参加意欲はあるが、協働での連携した動きや、自己の課題発見・解決方策の実践に課題がある。	○グループ活動中に、個人の動きだけでなく、他者と連携して動く練習をする時間を設け、協働による動きの工夫を意識させる。 ○良い動きの可視化をすることで目的意識をもたせる。 ○課題解決に向けた話し合いやアドバイス活動を行い、運動の工夫を言葉で振り返り次の学習へつなげる。	
技術家庭	○技術に関する専門的な用語の理解を更に深める必要がある。 ○作業における事前準備も含めた、技能の向上が必要である。	○より丁寧に授業中に専門的な用語を説明し、繰り返し学習を行う。 ○実演を踏まえた作業説明を行う。	
外国語（英語）	○主語や時制に応じて、変化が必要な場面においても、既習事項をそのままにしてしまう生徒が見受けられた。 ○会話活動の時間に話すよりも書き取りを優先する生徒が多く見られた。 ○全国学力テストの結果は、「場面の変化や文脈全体を捉えた長文読解」や「目的に応じた情報収集・整理」の部分で課題が見えた。	○帯活動の中で、特に留意すべきところを伝え、変化の必要性に気付くよう声掛けを行う。 ○使用教材を毎時間回収し、対話活動の時間が終了してから、書き取りへの流れを作る。 ○長文読解やリスニングにおいて、英文全体の流れや登場人物の心情・変化を捉えたり、目的に応じて必要な情報を聞き取り、整理したりする活動を充実させる。	